

# GK情報レポート

【2023年発行】

vol. 70

夏号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail [eigyo@gondametal.co.jp](mailto:eigyo@gondametal.co.jp)

<https://gondametal.jp>

## Contents

1. 低カドミウム黄銅棒のご紹介
2. 職場紹介 技術課
3. 新入社員紹介
4. 相場情報

皆様でご回覧下さい。

回覧印										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～69）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

## 1. 低カドミウム黄銅棒のご紹介

### 『低カドミウム黄銅棒の普及の背景』

近年、環境問題が世界的な課題となっており、環境に負荷を掛けない材料の使用やモノづくりをすることが重要になってきています。そういった環境問題に早い段階から対応したのが欧州であり、2006年7月に施行された『RoHS指令』は電気・電子機器における特定有害物質の使用制限に関する欧州連合(EU)の指令です。使用を制限される6物質(※2006年当時。2011年に改正され現在は10物質の規制)の中にカドミウムも入っており100ppm以下の含有量に規制されています。

地球環境にクリーンな製品づくりによるイメージアップ、環境負荷低減の技術力の証明、EUへの販路拡大などを見込み、低カドミウム黄銅棒の需要は年々高まっています。

日本では現在、月に約13,000トンの黄銅棒が製造されています。そのうち低カドミウム黄銅棒は40%前後に及び需要の高さが伺えます。RoHS指令の対象製品となる電気・電子機器は11カテゴリーに分類されており、2006年の施行当時に対象であった家電製品や通信機器に加え、現在では医療機器や制御機器などにも対象が広がっています。

### 『低カドミウムの管理体制』

カドミウムは黄銅棒の原材料として使用されている再生亜鉛、市中から回収された切粉などに不純物として含まれています。使用する原材料にカドミウムが含まれていると、そのままカドミウムを含んだ黄銅棒が出来上がります。

当社では黄銅棒は自社で鋳造しているので厳格な原料管理の下、ロットごとに基準を満たした銅スクラップ・黄銅切粉・再生亜鉛を使用しています。鋳造以降の製造工程では、カドミウムの分析は『蛍光X線分析装置』と『原子吸光光度計』を使用し、カドミウム含有量が75ppm以下であることを確認しています。

### 『高い品質』

当社の低カドミウム黄銅棒は50Φ~110Φまでは引抜、115Φ以上は鍛造製法で作られています。一般的に径公差は押出製法よりも引抜製法の方が優れていると言われており、当社の110Φまでの引抜品は±0.3%の優れた径公差で製造しています。

また鍛造棒のJIS公差は±1.0%(例・・200ΦのJIS公差±2.0mm)ですが、当社の低カドミウム黄銅棒を含む115Φ以上の全ての黄銅棒は、社内目標公差を±0.5mmとしており、他社で製造される押出棒よりも高い精度で製造しています。

さらに110Φまでは引抜後に矯正、115Φ以上は鍛造後に旋盤加工を行う事により、製品の真直度も非常に高くなっています。

## 『低カドミウム棒の販売サイズとロット』

当社は低カドミウム黄銅棒を 50Φから製造しており、サイズは 400Φ超まで対応可能です。また在庫販売もしており、在庫サイズは 50Φ～200Φまでとなっております。

当社の製造では基本的に最低ロットが 1 本からの販売になりますが、子会社の横浜伸銅では 160Φ～350Φまで在庫しており、1 枚単位で長さは最低 10 mmからの切断販売にも柔軟に対応しております。お客様のご希望のロットに合わせて当社と子会社の横浜伸銅を上手く活用して頂ければ幸いです。

お問い合わせ先

権田金属工業株式会社 営業部

TEL 042-700-0221 FAX 042-700-0660 mail eigyo@gondametal.co.jp

横浜伸銅株式会社 営業部

TEL 045-620-0034 FAX 045-620-0078 mail eigyo@yoko-shin.co.jp

記者 高橋



権田金属工業 在庫品



横浜伸銅 切断品



## 2.職場紹介 技術課

製造部技術課は現在5名が所属しております。

主な業務内容としては、生産設備を正常な状態に保ち、突発故障等で停止させない様に設備の修理、更新を計画し実行する事です。

当社は御陰様で創業105周年を迎える事が出来ました。会社の歴史が積み重ねられるのと同様に長年使用している設備がいくつかあります。

業務上気を付けている事は、各設備の修理です。また改造を行う際に部品調達等で苦勞する事がありますが、過去の修理実績や書類等を頼りに知恵を絞り、社内加工や協力会社のご協力を得て迅速に対応しております。また新規設備を導入する際は、工場の生産ラインに影響が出ない様、綿密な工事計画を立て、関係各所と細かな連絡を取り確実に実行するよう努めております。

過去に苦勞した体験としましては、真夏の猛暑日に生産計画が詰まっている高圧プレス機が油圧配管より油漏れを起こし停止してしまい、至急修理が必要となり配管が収納されている高温のピット内で行った修理作業です。油を扱う作業の為、只でさえ暑い中、風を通さないツナギを着て作業をしなければなりません。熱気の中、油圧配管を取り外し、溶接、洗浄、カラーチェックによる修復部の検査を行い、修理した油圧配管を設備に戻しました。昼過ぎから作業を始めて修理完了したのは深夜となり、かなり体力を消耗しましたが、苦勞の甲斐あって翌朝には正常に設備を稼働する事ができました。



中央が技術課課長 青田

また最近では、設備のオペレータと一緒に設備点検を行い、社内のメンテナンス力を向上させる為の勉強会を行っております。この取り組みにより、設備の異変を早期発見し、迅速な対応が出来る様になってきております。

技術課はお客様と直接接する機会が少ないですが、全ての生産は各設備が滞ることなく稼働する事が重要です。今後ともお取引様方々に当社製品を末永くご利用頂けるよう、一同精進して参ります。

記者 技術課 青田

### 3. 新入社員紹介

当社では将来の更なる発展の為に毎年新入社員を採用しています。

今年は工業高等専門学校等から1名の新人を迎えました。

4月3日(月)に入社式を行い、約一ヶ月の研修期間を経て、現在は圧延係に配属されています。

圧延係は当社製品の約70%が通過する、心臓部とも言える部署で毎日頑張っています。将来は当社を背負って立つ人材となる様、期待しています。

記者 日吉





## 4.相場情報

### 1. 電気銅建値推移

2023年2月・・・1,260円（スタート）（2月平均1,245.8円）  
2023年3月・・・1,280円（スタート）（3月平均1,238.5円）  
2023年4月・・・1,250円（スタート）（4月平均1,234.7円）  
2023年5月・・・1,210円（スタート）（5月平均1,181.6円）  
2023年6月・・・1,180円（スタート）（6月平均1,240.0円）

### 2. LME 在庫状況及び需給状況

4月28日の国際銅研究会（ICSG）総会で、今年の銅鉱石生産量は昨年比で3.0%前後増える  
と発表された。コンゴ、ペルー、チリ等で鉱山の新規操業及び拡張プロジェクトがあり、ま  
た各国鉱山のパンデミック制限緩和による操業の正常化をその理由に挙げている。

世界の銅の需要量の約半分近くを担う中国の経済活動は期待通りとはいえない。中国国家統  
計局発表の4月の製造業における購買担当景気指数（PMI）は前月から2.7ポイントの大幅  
な下落で49.2となった。5月は48.8を示すも好況を判断する指数50ポイントには及ばず。  
国際通貨基金（IMF）の見通しでは、全世界の今年の成長率（GDP）を昨年の3.4%から2.8%  
としている。ウクライナ情勢長期化の影響は深刻である。LMEの在庫量は今年2月から増加  
に転じた。パンパシフィック・カッパー（PPC）は、今年の世界銅地金需給量を最終的には  
35万-36万トン程度の供給過剰と予測した。

### 3. 為替の見通し

アメリカの5月の小売業を含む第三次産業PMIは、前月から1.1ポイント上昇して54.5と  
高水準に達し、活況を呈する一方、製造業の喧噪は一段落。製造業PMIは昨年11月に50を  
割り47.7。本年5月も48.4。第三次産業が米景気後退を食い止めている。アメリカの消費  
者物価指数（CPI）は目標の前年比2%に対し4%台だが現状は低下傾向にある。

米議会上院は6月1日に財政責任法案を可決。デフォルトを回避し財政上の懸念は解消され  
た。6月14日米連邦準備制度理事会（FRB）はインフレが緩和傾向にあるとして、利上げ延  
期の判断を表明。パウエルFRB議長は物価を抑制しつつインフレの鎮静化を図り、経済の軟  
着陸を見込んでいると発言した。米政策金利に関しては、今年いっぱい現状維持の5%程  
度で高止まりとなる見込である。

円安は日本経済の低迷と日米の金利差拡大が主要因と見られ、幾分緩和されるもののこのま  
ま続く可能性が強い。

#### 4. 今後の見通し

米商務省は今年末迄の自国のGDP成長率を昨年同期の2.1%を下回る前年比0.9%と予測した。米景況は下り勝手である。EUの政策執行機関、欧州委員会(EC)は5月にユーロ圏の経済成長率は昨年の3.8%に対し今年は1.1%との予測を発表した。日本は去年今年共に1%台と成長率は低い。欧米の景気減速の懸念などを受けて5月の中国のドル建ての輸出統計は、前年比7.5%減となった。輸入も前年比マイナス4.5%。中国経済は回復途上といえる。中国全国人民代表大会で、今年の実質成長率目標は従来予想(最大5.5%)の下限に当たる5%前後と報告された。ICSGは中国の今年の銅地金見掛消費量は前年比1.2%と抑えた数値を予測している。長期スパンでは、銅の需給状況は電気自動車(EV)の普及により逼迫或いは供給不足が予想されるが、現在の世界の経済状況に照らすと、一時的にはあるが幾分の供給過多に傾くものとおもわれる。

短期予測(1M) LME \$8,200~9,000/t 為替 138~145円/\$  
銅建値 1,150~1,300円/kg

長期予測(3M) LME \$7,700~9,200/t 為替 135~150円/\$  
銅建値 1,120~1,350円/kg

記者 田中

